



スプリングスクールin津和野2008レポート

～津和野の子どもたちとの交流など

2008
Spring
School

今回で18回目を迎えた、小・中学生のための自然体験スクール。新小学1年生から中学2年生までの男の子6名、女の子5名の合計11名と一緒に、3月28日から30日までの2泊3日で、島根県鹿足郡津和町に行ってきました。今回は、東京からは遠いこともあり、全員が関西からの参加です。ナビゲーターは、水谷心さん(しんさん)と上田の2名です。それではご報告します!



津和野の子どもたちと一緒に

1日目 新幹線にて、山陰の美しい城下町である津和野へ



新大阪駅のホームにて

8:20 JR新大阪駅新幹線中央入口前に集合。早朝に、参加予定だったゆうかちゃんのお母さんから電話が…。お熱があつて行けないとのこと。きっとこの日を楽しみにしてきただろうに、と思うと、心が痛みます。またいつか、一緒に行こうね。

さて、今回初めて参加するのは、4月から1年生になるしゅんくん。いつも参加してくれるまゆちゃんの弟です。「しんさんのお隣に座る!」と、たくさん甘えています。

8:45 新大阪発のぞみ3号博多行に乗車。満席です。

シートをボックス席にして、トランプをしたり、おしゃべりをしたり…。バスよりも声が響くかも。でもとっても楽しそうです。

10:42 新山口駅で乗り換え。売店で、山口県限定のグッズに夢中です。私もビンゴゲームの景品用に、フグの顔だけがドラえもんになっているキーホルダーなどを購入しました。

11:26 新山口発。1両編成の各駅停車で、ゴトゴトと揺られながら、津和野へ向かいます。

12:56 ようやく津和野着。教育委員会の澤江さんが迎えてくれました。

13:15 今日からのお宿である“よしのや”へ。新幹線の中で注文をとったメニューをいただきます。

14:00 さっきまで晴れていたのに、急に冷たい雨が…。

14:10 安野光雅美術館にてオープニング。津和野について、お話してもらいました。



新幹線車内にて。めちゃくちゃ楽しそう!

15:00 美術館にあるプラネタリウムの見学。安野光雅先生の解説で、四季の星空を眺めることができます。先生は「小学生時代の感性が、何よりも大切」と話しています。小学校時代に、自然体験をしたことが、みんなが大人になったときに、何かの形で生きてくれればうれしいです。

16:00 雨が上がったので、外でスケッチ。でも寒い…。スケッチをしたら、後は美術館で色をつけます。「この色、どうやったら作れるの?」など、わからないことは、しんさんに質問します。短時間なので、急に絵を描く技術が上達するわけにはいきませんが、美しい風景の中で絵を描くことで、感性が刺激されることでしょう。

17:15 本日のプログラム終了。宿へ帰ろうとしたら、また雨が…。途中で全員で雨やどりです。「雨の中を帰ろう」という子と、「やむまで待とう」という子。それぞれの言い分を聞くと、おもしろいです。

18:30 夕食。メニューは事前にせいくん(中2)に相談して、考えてもらったものを、そのまま作ってもらいました。鶏のからあげ、ポテトサラダ、豚汁、デザート(ゼリー)です。

19:30 夕食後は、お部屋で自由行動。お部屋は男女とも2部屋ずつにしました。女の子は、一つの部屋にまとまって眠ります。

21:00～23:00 それぞれのいつもの就寝時間にあわせて、眠りにつきます。



乗り換えの新山口駅にて。レトロな雰囲気



しんさんのスケッチ教室。美術館のすぐそばにて

2日目 津和野の子どもたちと、すぐに打ち解けて



ペットボトルに粉をつめて



ニャーダンスで生地を混ぜます



フタを開けると、生地が飛び出して



ハート型のピザが出来上がり!

も、教室、せまくて、いやー」など、お互いにびっくりしていました。その後は、「ドッジボールの試合がしてみたかった」という左鐙(さぶみ)小学校の子どもたちの強い要望を受け、津和野対大阪、男の子対女の子、など、次々に対戦。すぐにあだ名をつけたり、抱き合ったり…。1時間でこんなに仲良くなれるのですね。

14:00 午後からはたき火を利用して、青竹に、溶かした生地を何度も振り掛けながらバームクーヘンを作りました。使った卵は、なんと100個!焼き上がりまで、2時間。大きなバームクーヘンが出来上がりました。

16:00 プログラム終了。

16:30 津和野温泉なごみの里へ。ここで津和野小学校の子どもたちとお別れです。「めっちゃ、せつない」「また絶対に会おうな」など、いつまでも別れを惜しんでいました。

18:00 よしのやにもどり、夕食。とんかつ、サラダ、味噌汁、デザート(プリン)。

19:30 しんさんのマジックショー&ビンゴ大会。「いつもマジック、インチキやなあ」と言いながら、楽しみにしているようです。

21:00~23:00 いつもの生活にあわせて、就寝です。

7:00 「朝ですよー!」と各部屋をまわると、ぐっすりと眠っています。

8:00 眠い目をこすって、朝食。カレイの干物、ミニサラダ、板わさ、卵、お味噌汁です。

9:00 バスにて出発。津和野小学校の子どもたちが乗っていて、「何年生?」など、少しだけ会話します。

9:30 残念ながら廃校となった元名賀小学校へ。地元の津和野小学校、左鐙(さぶみ)小学校の児童12人と一緒に、まずペットボトルピザ作り。益田市の高津小教諭伊藤修二さん(通称:にゃー先生)を講師に、ペットボトルの中に油や砂糖、小麦粉などを入れて生地ができるまで懸命に振り続けます。時には、お腹の上であたためたり…。なかなか根気のいる作業で、白っぽかったり、ねばっこかったり、子どもたちの様に、個性豊かな生地が出来上がりました。そして、ペットボトルのフタを開けると、ズルズルと出てきます。生地の上にタマネギやサラミなどを載せて、段ボールオーブンで焼き上げました。出来上がりも、ナンのようにだったり、本格的なピザのようだったり、個性的な作品が出来上がりました!

13:00 左鐙(さぶみ)小学校の全校児童数は、なんと7名!全員で自己紹介をしました。学校の全校児童数も紹介してもらうことにしました。「700名です!」と大阪の子たちの発表に「すごいー!友達いっぱいできる!」と、うらやむ声が。「で



最初は距離があった子どもたち



焼いては生地をかけて...



根気のいる作業です



出来たてはおいしい!

3日目 津和野の石に記念の絵を残して

7:30 起床。めがねをかけたまま寝ていたすずちゃん(小3)。遅くまでお話ししていたのかな? しゅんくん(小1)がなかなか起きません。コチョコチョしたり、同じ部屋の男の子たちで「起きろー!」と耳元で言ったり…。それでもぐっすり気持ちよさそうに眠っています。もう少しゆっくりと寝かせてあげたいけれど、朝食の時間です。

8:00 朝食は、のどろの干物、ハムサラダ、じゃこおろし、味噌汁です。

9:20 お世話になったよしのやを出発。「うэдさん、ホテルの人がやさしいから、ここにしたいの?」とまいちゃん(小6)。とってもやさしく迎えてくださり、感謝です。

まずは名物のお菓子「源氏巻」のお店へ。こしあんをカステラ状の生地で巻いた、あん巻のこと。お母さんに、おばあちゃんに…と、楽しそうに選んでいます。

その後は、川沿いの土手を駆け巡ったり、川に石を投げたり、神社の鳥居に石を投げたり…。津和野の子どもたちには当たり前のことかもしれませんが、都会の子どもたちには、とても新鮮な遊びのようでした。

12:00 弥栄神社の近く的美松食堂というなりずしがおいしいお店にて、昼食



石に絵を描く作業は、全員が夢中に



大阪名物のたこ焼きを記念に残して

13:00 ゆっくりと街を探索しながら、再び安野光雅美術館へ。途中、おみやげものやさんへ立ち寄ります。「うэдさん、こっちの源氏巻、10円安い!」など、大阪の子は価格に厳しいです。

14:00 美術館にて、河原の様々な形をした石に、マジックやクレヨンで絵を描きます。いつもは紙に描くことが多いので、とても新鮮なことのよう。そして、高岡通りに、飾ってくださるとのことなのです。次に訪れたときに、みんなで見るのが楽しみです。

そして終りの会。お世話になった教育委員会の澤江 健さん、町役場の滝山浩美さんに聞いてもらって、「津和野のよかったところ」「もっとこんなものがあればよいと思うこと」そして「こんなおみやげがあったらよいと思うもの」の3点について、全員に発表してもらいました。よかったことは、「町がきれい」「自然がいっぱい」「道がきれいで、ゴミが落ちていないこと」など。もっとこんなものがあればよいことは、トップが「コンビニ」でした。コンビニのない生活は考えられないようです。「ほしいおみやげ」は、津和野限定のシャーペンやハサミなどの文房具、という声が女の子たちから上がりました。みんなの声が、これからの町の何か参考になればうれしいです。

16:49 澤江さん、滝山さんに見送られて、思い出がいっぱいの津和野を出発

18:41 新山口駅にて乗り換え

19:00 のぞみ52号東京行に乗車

20:58 新大阪着。また会おうね!



いたちが出現し、大喜び!



石畳の町をゆっくりと歩いて

最初は「一緒に遊ぶのいやや!」と言っていた子どもたちでしたが、いざドッジボールを始めると、すぐに仲良しに。本気の勝負は、迫力がありました。きっと時間があれば、何時間でも続けていたでしょう。津和野の子どもたちは、とっても素直で、先生が話すとしっかりと目を見て聞くし、思いっきり笑うし…。一方、都会の子どもたちは、先生が話すと斜めに聞くし、挨拶するのは苦手だし、「だるい」とか「うざい」とすぐ言ったり…。

これは、みんなの育っている環境によるものが大きいと思います。人をすぐに信頼すると、事件に巻き込まれることもあります。道で出会ったら「まずは、悪い人かもしれない」と疑ってみる、と大人たちが教えているのでしょう。一方、津和野の子どもたちは、とても人懐っこくて、すぐに甘えてくれて、昔の子どもはこうだったよな…と思いました。都会で生きていく上ではしょうがないと思うのですが、子どもたちが本来の子どもらしさを発揮でき、人を信じられるように、私たち大人が何とかできないものか、と、考えさせられるスクールとなりました。今回の交流は、お互いの子どもたちにとって、とても意味があったと思います。「教室がせまい!」とおこっていた子も、「でも学年に自分一人はいややな。せまくても、しょうがないか…」と、気がきがかったようでした。自分たちとまったく違う文化に触れてみることは、貴重な体験だと思います。いつの日かきっと、また津和野を訪れ、子どもたちと再会したいです!(上田)